

## 令和7年度第2回岡崎市地域公共交通会議 会議録

### 1 開催及び閉会に関する事項

令和7年8月4日（月）14時00分～16時00分

### 2 開催場所

岡崎市役所福祉会館2階福祉201号室

### 3 出席者氏名

#### (1) 出席者（18名）

|     |     |    |                            |
|-----|-----|----|----------------------------|
| 松本  | 幸正  | 委員 | （名城大学 理工学部社会基盤デザイン工学科 教授）  |
| 松尾  | 幸二郎 | 委員 | （豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授） |
| 牧田  | 晃輔  | 委員 | （東海旅客鉄道（株））                |
| 高井  | 勇輔  | 委員 | （名古屋鉄道（株））                 |
| 藏地  | 弘典  | 委員 | （愛知環状鉄道（株））                |
| 後藤  | 泰之  | 委員 | （名鉄バス（株））                  |
| 藤田  | 信彰  | 委員 | （名鉄東部交通（株））                |
| 浅岡  | 林平  | 委員 | （愛知県タクシー協会岡崎支部）            |
| 小林  | 裕之  | 委員 | （（公社）愛知県バス協会）              |
| 猿渡  | 博士  | 委員 | （愛知県交通運輸産業労働組合協議会）         |
| 多々内 | 丈雄  | 委員 | （岡崎商工会議所）                  |
| 浅野  | 宗夫  | 委員 | （岡崎市障がい者福祉団体連合会）           |
| 松原  | 秀敏  | 委員 | （六ツ美中部学区エリアバス運営協議会）        |
| 唐澤  | 直志  | 委員 | （国土交通省 中部運輸局）              |
| 原田  | 光一郎 | 委員 | （国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局）       |
| 森本  | 恭平  | 委員 | （愛知県都市・交通局交通対策課）           |
| 森   | 治紀  | 委員 | （愛知県 西三河建設事務所 維持管理課）       |
| 渡辺  | 大祐  | 委員 | （愛知県警察岡崎警察署）               |
| 鈴木  | 晃   | 委員 | （岡崎市 副市長）                  |

#### (2) 出席者（意思表明書提出 3名）

|    |    |    |               |
|----|----|----|---------------|
| 長坂 | 秀志 | 委員 | （岡崎市総代会連絡協議会） |
| 鷺山 | 幸男 | 委員 | （岡崎市老人クラブ連合会） |
| 鈴木 | 勝彦 | 委員 | （額田地域生活交通協議会） |

#### 4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

|               |               |            |
|---------------|---------------|------------|
| 岡田 晃典（総合政策部長） | 木下 政樹（地域創生課長） | 三浦 貴之（副課長） |
| 竹内 雅晴（主任主査）   | 香村 尚将（総括主査）   | 稲垣 康彦（主査）  |
| 熊谷 大輝（主事）     | 澤田 和樹（主事）     | 安藤 寛人（事務員） |

#### 5 傍聴者、随行者等

9 名

#### 6 協議事項

##### (1) 地域公共交通計画の策定について

資料 1 に基づき説明

原田委員より、国の公共交通に係るポータルサイト「MOBILITY UPDATE PORTAL」について説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 岡崎市は観光が大きな特徴があると思うが、今のところ観光客に向けた調査がない。こちらについてはどのように検討しているのか。

事務局： 観光のデータの調査は想定しなかったが、観光部局の方ではデータは取っているので、そういった情報を公共交通の情報とGIS等で重ね合わせて分析することで、施策に活かすことも視野に入れていきたい。

委員： 大変重要な視点であると思う。観光協会のデータや観光協会の施策を反映してほしい。名鉄バスの観光への取組み等を位置付けていく必要がある。

委員： “空間的”交通空白地における移動の確保とあるが、「空間的」の意味について詳しく教えてほしい。

事務局： 公共交通としての網として抜けている部分を第一優先に見ていきたい。その後、具体的に網のかかり具合を見ながら、勾配などの地域的な要因による交通空白という判断をしていくということで、空間的に見ていきたいと考えている。

委員： 5ページの物理的な「交通空白」エリアの抽出を行う。というところから、更に情報を重ねるようなイメージか。

事務局： そのとおりである。

委員： 交通空白地にこういった対策を講じるかが課題だと思うが、人口が少なくバス路線が少ないなどの地域に対して、アンケートを取る際に工夫する予定はあるか。

事務局： アンケートは無作為に取ることを考えているが、エリアごとに何名の抽出というように、エリアの偏りは避け、各エリアごとの意見を聞けるようにしたいと考えている。交通空白地に対しては、現在、いろんな地域から相談をいただいているので、地域で出た意見で反映できる意見は計画の中で反映するなど工夫していき

たいと考えている。

委員： 個別にいろんな声が聞こえてくると思うが、その声が地域全体の意見なのかどうかを検証できるアンケート内容にしていいただきたい。いずれにしても、各地区のサンプル数を一定数設けて、それぞれの地区の意見を統計的に優位な数値で吸い上げられるようなアンケート設計をしていただきたい。

委員： アンケートについて、具体的な反映イメージを教えてください。

事務局： 質問項目の⑩⑪をはっきりとしていくことが大事だと考えている。

昨今の運転手不足などから、今までのようにすべてのバス路線を維持するのは困難と考えており、しっかりと維持していく公共交通軸と拠点を充実させることや、交通空白における移動の確保のため、自家用有償などの認知度や必要性を高めるためにもアンケートを活かしていきたいと考えている。

委員： アンケートの質問内容について、公共交通を利用しない理由は重要だと思う。一方で、どんな時に使うかや、いざという時に使えるというところに公共交通の価値を感じているという回答を聞けるような質問があるとよい。

また、高校生のアンケートで、高校生はかなりの割合が自転車での移動だと思うが、通学時以外でどこに行っているか、どういった方法で移動しているかを聞くことで、その移動手段でどのくらいの距離まで移動しているかを把握できるとよいと思う。

事務局： いただいた意見を参考にしながら詳細を詰めていく。

委員： 資料には、通学時や休日の公共交通利用状況とあるので、通学以外の意見もここですっかり取ってほしい。

委員： 説明会は8つの地域区分を基本として、更にそれ以外、市街化区域、中山間に配慮した部分も行うということは8回以上やるということか。

事務局： 隣接している地区は、各8つの地域区分と合同で実施するなどを検討しているが、もしかしたら8回以上になるかもしれないし、8回で収まるかもしれない。その点はこれから整理していく。

委員： 了解した。できるだけきめ細やかに行っていきたいし、参加してもらうための声掛けの工夫が大事になると思うが、どう考えているか。

事務局： 単に SNS で広げたら集まるものではないので、まずは地域の代表のかたに連絡しながら、関心のあるかたや交通事業者にご協力いただき、例えばバス路線の中で周知いただけるとありがたいと思っている。

委員： ぜひ各事業者にご協力いただきながら、特に実際に利用している方々、高校生や大学生などの若い方々、子育て世代の意見が聞けるように工夫していただきたい。

委員： 基本的に利用実態を捉えたいと思っているが、今回、利用実態の部分では明確に把握できる内容ではない。現状、どういう利用状況なのかをしっかりと把握す

ることが重要。

意見を聞く時に市民アンケートも大事だが、ほとんどの人が車を利用しているので、こういった人に公共交通の不満度を聞いても意味がなく、公共交通を利用している方々から利用の不満に対しての意見を必要があると思うので、心配である。

高校生のアンケートはすごく大事だと思っていて、特に中山間においては高校生の利用で路線が保たれているところもある。一方で、送迎されているかたが結構負担に感じているという声も聞くので、高校生を窓口にしながら保護者のかたの声も聞けるとよいと思う。

今回の市民アンケートは、通勤通学・通院・買い物の主に3つの目的、have to do で聞くが、これからの公共交通や超高齢化社会時代の移動を考えていく上では、want to do（趣味や娯楽）での移動移動需要を捉え、それを支えていく交通体系をどうするかを考えていくべきではと思う。

市民アンケートで満足度を聞いてもあまり意味がないので、免許返納後にどんな移動手段を望まれるかを聞いておくと、将来どんな交通手段を考えないといけなかが見えてくるのではないかという気がする。岡崎市は「みんなでつくる地域の交通」という素晴らしい手引きがあるので、これに対して市民の意見をもっと深く聞いておくべきだと思う。

総括的には、岡崎らしいところをしっかりと入れた調査をしてほしい。

委員： 岡崎市の中学校単位の部活動がなくなり、8地区に分けて中学生が移動し活動することになるが、その移動手段は自転車・徒歩・送迎がメインでバスを使うことは考えられていないので、バス路線がある地区は中学生の部活動の時間帯の本数を増やせないか。また、活動によっては、六ツ美地区は矢作地区まで移動するので、こういった事情も踏まえてバス路線をどうするかを考えてほしい。

事務局： 現在、中学校で試行的に実施しながら課題を抽出していると聞いており、課題が出てくると公共交通が兼ねられるかなどが見えてくると思うので、教育委員会と情報収集をしていきたい。

委員： アンケートについては、まだ実施までに時間があるので、もう少し具体的なものができたら展開いただけるか。

事務局： 具体的なものができたら展開するので、意見等あればその際にもいただきたい。

委員： 現在、岡崎市自転車活用推進計画も更新時期だが、高校生の自転車利用などについて、アンケートを兼ねることはできないか。

事務局： 内容とボリューム次第だが、担当課に確認する。

## (2) 矢作デマンドの運行計画（令和7年10月～令和8年3月）について 資料2に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： チョイソコおかざきでは運行時間を 14 時から 13 時に変更したところ、利用者が時間を考えて利用するようになり、利用実績が向上した。現在は、11 時から 13 時の利用者が少ないので、チラシを配布するなどして利用促進を図っているが、往復利用のために時間を延ばすということなら、チョイソコおかざきも時間を延ばしてほしい。4 月から終わりの時間を 14 時から 13 時に変更したことで帰りが使えないという苦情も上がってきている。

事務局： 六ツ美と矢作ではエリアの広さや、チョイソコおかざきの場合、利用者の移動の方向が南から北の一方に偏っていることなどの違いがある。チョイソコおかざきでは、帰りの足の不安があるということから、当初予定していた 13 時から 14 時まで運行時間を伸ばして運行したが、結果的に移動実績が少なかったことから、地域の方々にも承認いただき、現在の 13 時としている。一方、矢作デマンドは、朝の時間帯は 2 台体制で矢作地区の北から南までの広範囲を運行しているが、帰りの足が一方方向にはならないことから、帰りの足の確保が課題となっているため、運行日数を週 5 日から週 4 日に絞ることで終わりの時間を 1 時間延ばすこととした。乗合率や稼働率が伸びる可能性があるかを検証するために 1 時間延ばしたが、これが伸びなければチョイソコおかざき同様、現状の 13 時までとすることになると思う。

委員： 今回の矢作デマンドは、会員が使いづらいということで終わりの時間を 1 時間延長し実証をしてみるということだが、チョイソコおかざきでも同じような意見が多く、延長運行の必要性が高まればやってもらってもいいと思う。少なくとも、矢作デマンドが 1 時間利用時間を延ばしたからチョイソコおかざきでも延ばせるという単純な話ではない。

委員： 日あたり利用者数が減ったということだが、運行をやめた木曜日に使っていた人の利用が減ったのか、あるいは運行時間を短くしたことによって往復で利用していた人の利用が減ったのか、実際の利用のどの部分が変わったかを見ておくとよいと思う。

事務局： 1 件ごとの会員の利用状況のデータはあるので、データを分析しながら本当に移動の足に困っている人のサービスに近付けられるように引き続き調査をしていきたい。

委員： アンケートで希望時間に予約が取れないという回答が多くを占めているが、希望した予約時間は情報として残っているか。

委員： 予約不成立の情報は取っているが、月に数件であり、事業性に関わるほど多くないと判断している。また、「希望時間に予約が取れない」という聞き方が、現在の運行時間以外の時間帯の利用ができないという回答も含まれてしまっている可能性があり、質問の仕方は反省点だと思っている。

委員： チョイソコおかざきでは、待ち時間が 30 分以上になると言われ予約をやめるといった意見もある。そういった情報は把握できるのか。

事務局： 予約が成立してしまっているものは把握ができない。チョイソコおかざきは利用者数が増えているので、待ち時間が長く予約不成立になってしまうことが増えている。傾向としては、朝の早い時間での移動を希望される人が多いので、チョイソコ通信で特に朝の利用を希望する人は前日など早めに予約を取るように周知をしている。

委員： 今回の実証実験は 3 月末で終了ということだが、本格運行を行うかどうかの判断はいつ頃するのか。

事務局： 最終的な判断はおそらく 2 月の地域公共交通会議で運行計画を固めていくことになると思うので、12 月の地域公共交通会議である程度の方向性を示せるように準備をしていく。現在、月 1 回、矢作地域のかたに集まってもらって議論をしているが、循環バスや地区の 2 つに分けるなどの意見もあるので、単純に実証運行・本格運行という分け方をするのではなく、次年度以降もどういった運行形態が適正かを引き続き協議する形を取るべきだと思っている。

委員： 朝の集中する時間は定時型にしてそれ以外の時間はフルデマンドにする形や、目的地固定型のデマンドなど、色々な方法を考えてほしい。

## 7 報告事項

### (1) 地域内交通の検討状況について

資料 3 に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 奥殿学区は名鉄バス奥殿陣屋のバス停までの移動の足ということで、まさに調和を目指して検討いただいているということで、事務局が地域の勉強会で説明いただいているということか。

事務局： 認識のとおりである。高齢者のかたはデマンドでの移動を口にするが、通勤通学のかたにとって路線バスは非常に重要なものであり、路線バスをなくしてしまうと将来の次の世代のかたを地域外に流出させてしまうことになることを伝え、御理解いただいている。

委員： 額田地域は愛知県の補助事業としても進んでいるということだが、具体的な話はこれからということか。

事務局： まずは額田地域 5 学区の方々に今の交通事情やいろんな手法の説明を行いながら、今年度中に先行地域となる学区を選定し、課題などを見つけながらまとめていければよいと考えている。

(2) 自動運転社会実装推進事業について

資料 4 に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 既存の名鉄バスのダイヤの合間に自動運転車両の入れていく形になるのか。

事務局： その通りである。

委員： 大体何パーセント程度の便数の上昇を見込んでいるか。自動運転の実証実験でもあるが、便を増やすというサービスレベル向上の実験にもなると思うので、バスの便が増えることも大々的に宣伝してもらいたいと思う。

事務局： 運行本数は現在調整中であるが、1 便ではないと思う。期間も昨年度は 1 週間程度の運行だったが、もう少し延ばしてもらいように調整をしている。予約は実証運行なので前日までの予約制などとし、既存の運賃運行と分ける形で名鉄バスと調整しているが、詳細がわかったら報告させていただく。

委員： 名鉄東岡崎駅、JR 岡崎駅は幹になる部分で利用者も多いが、人員不足でダイヤを削らせていただいた部分もあるので、ダイヤの補完という意味では間違いないと思う。また、交通量もそこそこあるので実証実験を行うにはちょうどいい道路環境であり、人の目に付く路線でもあるので宣伝にもなると思う。今後、レベル 4 で運行できるようになればダイヤの補完にもなると思うので、いい結果が出るように協力していきたい。

委員： 自動運転により何分ピッチかで運行できれば便利になり、水平エレベーターみたいに形になれば素晴らしい地区になると思う。

(3) 高齢者の免許返納の促進に向けた地方公共団体による対策の効果実証調査について

資料 4 に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 購入する側としては、昨年度と同様か。

事務局： 高齢者パス自体は同様である。アンケートについては、昨年度に比べてより詳細な調査項目を予定しており市民のかたには少し負担をいただくが、どうすれば免許返納に繋がるかといった行動変容に関する意見を聞くことを予定している。

委員： 現実的には、逆にこれでは免許返納できないといったこともあると思う。そうすると、免許返納できる環境を作るために、国の補助金を増やすだとかお金の流れを変えるだとか、大きなムーブメントに変えていかないといけないので、効果だけでなく逆効果も捉えられるような設計としてほしい。

(4) 夏休みに公共交通を利用して行くことのできる小学生向けお出かけスポットの周知について

資料 5 に基づき説明

高井委員より、当日配布資料「「こども manaca おでかけキャンペーン第2弾」として小児運賃の一部をマイレージポイントで還元します」に基づき補足説明

蔵地委員より、配布チラシ「岡ジャズトレイン ジャズ鑑賞の旅」に基づき説明  
＜以下、各委員の意見等＞

委員： 岡崎市のスポットについて、市のホームページ上ではPDFで紹介しているが、  
グーグルマップにスポットを入れてもらえるとわかりやすいので、可能であれば  
作成してほしい。

委員： 紹介しているスポットはどれくらいあるか。

事務局： 20～30箇所ほどある。

委員： 紹介しているのは岡崎市内のスポットのみか。

事務局： 市の公共施設や関係庁が講演などを行っているかという照会で回答が出てきた  
ものを載せている。

委員： 第一歩であるが、利用者とすればリンクから地図が見れるようになるとよい。こ  
れは、地域創生課のホームページまで来ないと見られないか。

事務局： 現在は市のホームページのトップページから確認できる。

委員： 中日新聞が提供し地域情報を発信しているアプリ「ローカル」などでも提供で  
きないか。

事務局： 広報部局にも確認してみる。

委員： いろいろな媒体を活用して、積極的に広報していくべき。

委員： ゼロカーボンシティ推進課が温室効果ガス削減の取組みとして実施する「路線  
バスで行く里山散策」というイベントを見つけ、少し切り口は違うがバスの利用  
促進ということで、ノベルティを提供できたらと思っている。

## 8 連絡事項

次回会議（令和7年第3回）予定について連絡をした。

— 会 議 終 了 —